

委員会視察成果報告書

令和7年10月14日

犬山市議会議員 大沢 秀教 様

議員名 5番 小川 隆広

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年10月 7日(火) ～ 令和7年10月 8日(水) (1泊 2日)
(2) 視 察 地	岡山県高梁市（高梁市立図書館）
(3) 視察の種類	（常任・特別）委員会（ 民生文教委員会 ）
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	〈視察概要〉
	図書館のあり方を研究する上で、先進地として岡山県高梁市の高梁市立図書館の視察を行った。視察の内容を簡単にまとめる。
	冒頭、伊藤泰樹高梁市議会議員より、人口減少や高齢化の課題に触れながら、観光資源として現存12天守の備州松山城や日本遺産のジャパンレッドなどをご紹介いただいた。久世高裕民生文教委員長は、築35年を経過した犬山市立図書館のリニューアルの構想がない現状を踏まえ、先進事例として視察先とした理由を述べた。
	高梁市立図書館、上森智子館長からは、高梁市の概要と図書館について詳細な説明をしていただき、高梁市の人口が昭和25年頃の約7万6千人をピークに減少を続けて現在は約2万5千人であること、高齢化率が44.2%で2040年には55%に達すると予測されていることが課題として紹介された。
	高梁市立図書館は2017年2月に駅と一体化した複合施設としてオープンした。4階建てで、1階にバスターミナル、クリーニング店、2階にスターバックスコーヒー、書店、観光案内所が入居し、2階の一部から4階にかけて図書館となっている。3階には学習室を設置、4階は子ども図書館としてゾーニングしている。



運営は他自治体でも多くの実績がある、カルチャーコンビニエンスクラブ（CCC）が指定管理者となって図書館業務と観光案内所の業務を行っている。

コンセプトは『つなぐ図書館』で、「高梁市の歴史を活かして将来を担う人材を育み、街を元気にすること」を目指している。開館時間を朝9時から夜9時までと長くし、座席数を多くして1日滞在できる図書館としている。日本全国どこからでも利用者カードを作成でき、宅配での返却サービスを提供している。市内33箇所へ移動図書館車の運行をしており、観光案内所の物産品を移動図書館車で販売していることは特徴的である。高梁川流域や近隣の市町村と連携した相互返却サービスも実施している。

図書館を「本を読むだけの場所ではなく、何かのきっかけに出会う場所にしたい」という考えのもと年間200回以上のイベントを開催している。人気のイベントとしては社会科見学会や古典講座、備中神楽、防災を学ぶボードゲームやウェキペディア編集会議などがある。指定管理者の更新の際には、2階の待合スペースを可動式にリニューアルし、イベントスペースとして活用できるようにしたことも紹介された。

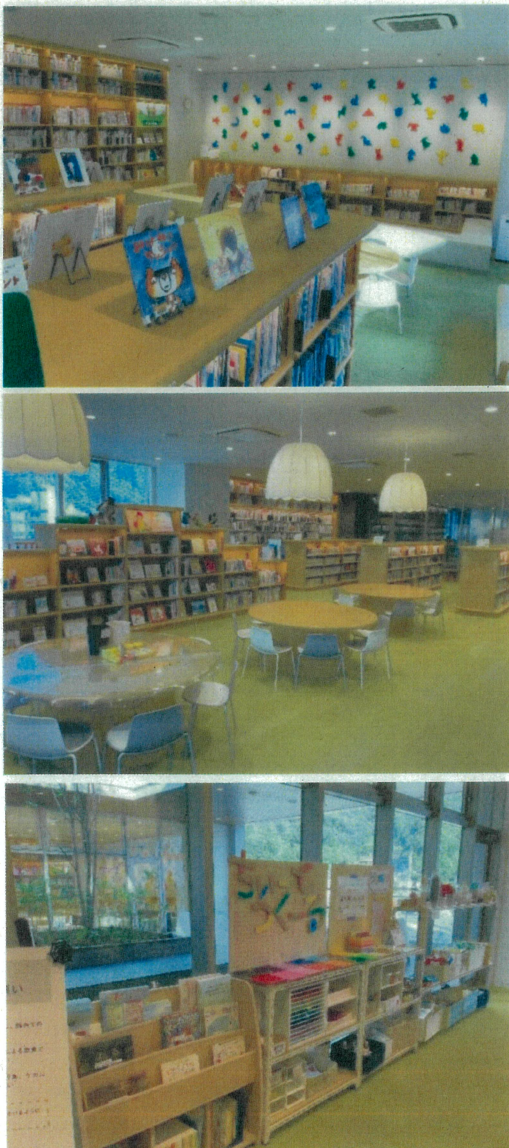
利用者アンケートでは約90%が満足と回答しており、「街に変化があった」「にぎわいができた」「集まる場所ができた」などの意見が寄せられている。今後は高齢者や外国人の利用促進、子どもたちの読書推進、観光の玄関口としての情報発信に取り組む予定である。

来館者数は旧図書館の2.3万人から51.5万人へと約20倍に増加し、貸出冊数も8万冊から21.6万冊へと2.5倍に増加したと紹介された。市内と市外の来館者比率は、おおよそ半々となっている。

図書館の建設費は約19億8千万円で、その財源は社会資本整備交付金が約6億2千万円、それ以外は過疎債を活用して整備された。図書館を建て替えた際の経済波及効果は約12億円と試算されていると説明があった。

視察の事前質問へは、それぞれ担当者から回答をいただいた。新図

	書館建設までの合意形成やワークショップ等の質問には、平成 24 年に市民参加のワークショップを実施し、「コーヒーを飲みながら本を読みたい」「学習に集中できる学習室が欲しい」などの意見が寄せられたとのこと。駅との複合施設を建設するにあたり鉄道事業者との合意形成はどのようにしたのかという質問には、設計者に西日本旅客鉄道株式会社のグループ会社を選定することで円滑に行った、複合施設を建設した土地は市の所有であったと説明いただいた。 当日の質問では、地元への配慮として図書館蔵書の書籍は地元の書店より購入していること、交通の結節点であることから、帰宅時の中高生の学習スペースとしての利用が多く、書籍の貸出まで至らないケースが多いことや、テスト期間中の学習スペースが不足する課題を回答いただいた。図書館が学習スペースとしてしっかり機能することで、地域の中高生の進学率にも影響したことは特筆したい。 所感を述べる。 公共性・公益性や、公の責務として直営を原則として考えるべきと思うが、これだけの多角的、戦略的な図書館運営は民間活力に頼らなければ困難であると理解した。また立地条件は大変重要であると感じた。駅やバスターミナル直上という立地条件が学習スペースとして大変利用しやすいものとなっている。本市で取り入れようにも立地条件については如何ともし難いが交通結節点直上というのが理想である。建設に当たっては高梁市の置かれた状況から過疎債を起債できたことが大変大きいと考える。 平成14年に実施した市民参加のワークショップの「コーヒーを飲みながら本を読みたい」「学習に集中できる学習室が欲しい」などの意見は、全国共通の利用者の本音だと思う。この本音に向き合い、実現することが図書館の改善につながったと考える。「本を読むだけの場所ではなく、何かのきっかけに出会う場所にしたい」という考えは図書館改善の最高の理念だと感じた。
	短期と長期の目線で提言したい。

(5) 犬山市に 対する提言	視察の際に犬山市の図書館についてもお褒めをいただいた。
	日々改善に取り組まれていることは理解している。その上で、コー
	ヒーを飲みながら本を読める図書館の実現、適度な会話で学び合うこ
	とのできる学習コーナーの実現を探究していただきたい。「本を読む
	だけの場所ではなく、何かのきっかけに出会う場所にしたい」という
	理念を本市でも取り入れられたい。
	長期目線では、築35年を経過した犬山市立図書館をこれからどう
	していくのか、計画を策定すべきと考える。その際には地元交通事業
	者とも協議を行い、交通結節点直上という立地条件が実現できない
	か、研究を進めていただきたい。
	〈参考写真〉 4階子ども図書館 

2～3階図書館内



バリアフリー対策



図書館（駅直結）外観



委員会視察成果報告書

令和7年10月14日

犬山市議会議長 大沢 秀教 様

議員名 5番 小川 隆広

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年10月 7日(火) ～ 令和7年10月 8日(水) (1泊 2日)
(2) 視 察 地	兵庫県西宮市（西宮市役所）
(3) 視察の種類	常任・特別 委員会（ 民生文教委員会 ）
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	〈視察概要〉
	小規模保育事業所や地域型保育事業所の先進地として兵庫県西宮市の先進地視察を行った。兵庫県西宮市の先進地視察を簡単にまとめる。
	視察の流れとしては、冒頭、川村よしと西宮市議会議長より挨拶をいただいた。西宮市が人口約49万人の文教住宅都市であり、「子育てするなら西宮」をスローガンとしているものの、待機児童問題が継続していること、新しいマンション開発に伴う保育ニーズの高まりが懸念材料であることが述べられた。
	久世高裕民生文教委員長は、犬山市が人口減少に直面していること、公立保育園中心の運営で、ようやく民間の保育園を作ることをはじめたことに触れ、未満児（0～2歳）のニーズに対応できていないことが課題であり、小規模保育事業所や地域型保育事業所の導入が必要と考えていることを述べた。
	西宮市役所子ども支援局こども支援総括室子ども支援総務課の岡田担当課長より、待機児童解消のために地域型保育事業所を整備してきた背景についてご説明いただいた。
	西宮市は、令和5年4月1日時点で76人の待機児童がおり、全国ワ



ースト2位であることが報告された。大阪、神戸のベッドタウンとして大型マンション開発が進み、保育需要が高まり続けている。平成25年、平成26年に待機児童ゼロを達成したものの、その後、共稼ぎなどで（少子化傾向だが）子どもを預ける需要が急増したため待機児童が発生した。平成28年度以降、保育施設の整備を続けている。0～5歳児を受け入れる大規模施設だけでなく、0～2歳児向けの地域型小規模保育所も整備してきた。また令和2年度には国家戦略特区事業として、1～3歳児を受け入れる特区小規模保育事業所を開始し、卒園後の受け入れ先として公立幼稚園の活用を令和4年度から開始している。

地域型保育事業所の運営主体は株式会社が34%と多い。持ち込み型で募集しており、内装改修工事などには国の補助金を活用している。地域によって人口や子どもの数に差があり、入所児童数が定員に満たない施設もあれば常に満員の施設もあるとのこと。近年は事業者からの撤退の申し出もあり、その理由は「施設長が高齢になり、そろそろ園を閉めたい」「人員確保の困難が難しく、ひとり辞められたら補充ができない」「今後、少子化が進んでいくだろう」など様々である。保護者の満足度や要望の把握については特別な取り組みはないものの、さまざまな意見を受け付けている。2歳児卒園後の受け入れ先確保については、現在は受け入れ先の確保を条件に事業者募集をしており、同じ法人が運営している大きな施設への移行がスムーズに行われている。特区小規模保育から公立幼稚園への連携も、園庭開放や行事への招待、園長の訪問などを通じて密に行われている。

財政的な理由から公立保育所を縮小する方向性が示されており、民間の力に依存する傾向が強まっている。課題としては、保育ニーズの高まりに伴い、学童保育（放課後児童クラブ）の需要も増加しており、こちらも待機児童が発生しているとのことだった。

当日の質疑応答では保育士の労働環境、公立と民間の保育施設比率、入園の選考方法などがあつた。

保育士の労働環境については、保育士確保のための支援策として、

宿舎借り上げ支援事業による家賃の一部負担、就職1年目、3年目、5年目に各10万円を支給する事業、奨学金返済支援などを実施していると回答があった。また養成校との連携については、市内に女子大学（保育士養成校）があるが、地域型保育事業での連携については特にないものの、卒業生に西宮市での就職を呼びかけていることが説明された。

公立と民間の保育比率については、公立の保育所が22園（うち1園が認定こども園）、私立の保育園は32園、認定こども園が41園と民間保育所が多い。入園の選考方法については、AIを活用しながら選考を行い、最終的な調整は人間が行っている。保育入所課という専門部署を置き、20人程度のスタッフが関わっているとのことだった。

大変不躰な質問かとは思ったが、保育所を民間に委託していく中で、「公」の役割は何なのか尋ねた。一番に待機児童の解消であると回答いただき、保育所があっても保育士が確保できていないと解消に繋がらない難しい課題もあると説明いただいた。入園希望について公立と民間でニーズに差があるのかについては、官民にかかわらず「自宅に近い」「駅に行くまでにある」といった立地条件が重要視されると説明いただいた。

所感を述べる。

まず、西宮市も犬山市も近くに大都市があり、鉄道路線が貫いているという部分は同じであるが、環境面や人口規模が大きく異なり単純に比較はできない。しかし共稼ぎの増加とともに未満児保育の需要が増加していることについては全国的なトレンドであり、本市においてもニーズがあると考えます。

犬山の子は犬山で育てるとの観点から、公の責務として直営を基本とすべきと考えるが、今回の視察を通じて、人口減少局面とニーズの多様化の中で、「公」が市民に対して、どのようなかたちで責務を果たすかは様々であると感じた。西宮市の岡田担当課長より「公」の責務は待機児童解消であると明確にお答えいただいた。民間活력에頼る

	ことで生じた余裕を別の子育て支援に注力するという考え方は理解できる。「公」にもリソースの限界はある。向こう10年、20年で犬山市がどう変化するか、年代ごとの人口予測、働き方など考慮して保育所のあり方を考える必要があると感じた。「自宅に近い」「駅に行くまでにある」といった保育所の立地条件はあらためて重要であると感じた。
(5) 犬山市に 対する提言	公立園を無理に縮小する必要はないと考えるが、人口減少局面とニーズの多様化の中で、「公」の持てるリソースで、子育て支援を効果的に行うための手法については、多角的に研究を進められたい。 立地条件は大変重要と考える。共稼ぎの増加とともに、交通結節点で未満児を預けたいというニーズは相当高まっていると感じている。 ニーズに対応するための研究を進められたい。 国策もあって、地方自治体の事業で民間に頼らざるを得ないものも数多く存在する。直営を基本とすべきだが、民間事業者との適切な距離感での連携も必要であり、情報を適切に公開しながら契約事を進める体制づくりが急務であると考え。当局の研究に期待したい。 保育士の労働条件は大変重要であるため、西宮市が実施するような支援策について研究されたい。特に現金を支給する事業については単費になると思うが大変重要と考える。 昨今問題となる不適切保育をなくしていくためにも、西宮市を参考にしながら官民で綿密に連携し情報共有する体制づくりが必要と考える。